

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第11号

平成27年5月12日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

朱舜水、148文字からなる正行像賛残す！

稲葉君山編「朱舜水全集」、安東省菴「三忠伝」に発見

正行公の朱舜水賛文発見に大感激！

湊川神社に建つ楠木正成の墓碑、「嗚呼忠臣楠氏の墓」（徳川光圀建立）の裏面に刻まれた賛文は、朱舜水の作であることは、楠正行通信第7号で紹介した。

私は、朱舜水が狩野探幽作の「楠公父子訣別図」に賛文を求められたのであれば、正成の賛文同様に、正行の賛文も残しているのではないかとかな希望を持って調べ始めた。

そして、出会ったのが、木下英明氏（平成8年11月当時・茨城県立歴史館主席研究員）の「朱舜水の楠正成像賛三首について」の論文である。そこには、正成像賛文三首の解説と同時に、“舜水先生文集には、正成の子の正行についての「楠正行像賛」も載せられている”と、あった。

国立国会図書館関西館で、稲葉君山編「朱舜水全集」を閲覧することができ、その正行像賛を発見することができた。

史料の少ない正行であるので、朱舜水の賛文発見に心うきうきしたこの時の感動は今も消えることがない。

木下英明氏のご指導を得たく茨城県立歴史館と連絡を取ったところ、既に退職しておられた同氏のご住所を教えていただくことができ、同氏から「楠正行像賛」の釈文、注記、更には参考文献を教えていただくことができた。

同氏からは、「正行公の賛文と三忠伝所収の賛文に異動あるにつき参照して下さい」「正行公の賛文につきましては、原典の追及を忘れないでと思います」とのご助言を賜った。

九州の柳川市の柳川市史編集委員会から発行されている柳川文化資料集成第二集「安東省菴集影印編Ⅰ」に三忠伝が含まれていることを知り、早速送ってもらった。

安東省菴・三忠伝に発見、また感激！

三忠伝は、平重盛、藤原藤房、楠正成の三人について書かれたものであるが、同書の成立について、安東省菴自身が序文の中で、以下の通り述べている。

『（三忠伝の成立は）二十三年前の万治三年（1660）、朱舜水先生が長崎へ来られた翌年、たまたま楠公父子の賛を求められた先生のために、私が二人の伝を書いて差し上げたことにあったが、直接本書の遍述を始めることになったのは、昨年になってようやく「羅山林先生文集」を手に入れ、卷三十八所収の「藤原藤房傳」を読むことができたこと、また、数年前に出版された村田通信著の「楠正成傳」（寛文九年序跋）を読んだからだと述べ、更に今になって思えば思うほど、平重盛と藤原藤房二人の賛を、先生に書いてもらわなかったことが悔やまれてならない。』

「安東省菴集 影印編Ⅰ」には、三忠伝は、江戸時代を通して広く流布しており、19の版本が確認できたとある。

そして同書に収載されたのは、国立公文書館内閣文庫本で、初刷りに近く、序跋（前書きと後書き）が完備し、虫損などの比較的少ない、伝本中唯一の四冊仕立ての豪華本であり、影印本の底本として最適と謳っている。

また同書巻頭の口絵の一つとして、「三忠伝」

柳川古文書館伝習館文庫本・河内屋版三忠伝袋が掲載されているので転載する。

安東省庵が朱舜水の賛文に曰く、と紹介している正成、正行の賛文個所は、国立公文書館内閣文庫本の下巻、三忠傳下「楠正成公 附正行公」の三十七頁にある。

正成の賛文は、湊川神社御賛碑に刻まれている賛文（三首の一番目）とは違い、三首のうちの二番目の賛文が載っている。

そして、正行の賛文は、朱舜水全集とは違い、返り点に加えて送り仮名が打たれており、理解するうえで大いに参考になる。また、使用文字の数は同じだが、2か所で文字が異なっている。

朱舜水全集・安東省庵集から転載

以下、両資料を扇谷が転載した文章を掲載する。

朱舜水全集 稲葉君山編

東京文會堂書店 明治四十五年四月十七日発行
朱舜水先生文集卷之十七

門人 権中納言従三位西山源光圀 輯
男権中納言従三位 綱條 校

楠正行像賛

禮曰。君父之仇。不興共戴天。齋囊復九世之讐。春秋大之。設呂小報大。弱復疆。益又難矣。豫讓不能得志於襄子。申胥所呂藉手於闔閭。公乃能建義旗。攻鳴鼓。卷甲倍道。潜師入都。使所報者身踰垣而逃。弟穴地而竄。陷刃於其妻。亦足呂落姦雄之膽矣。斯無媿於枕戈之志。可下呂下報其父臨歿數言。是父是子。雖青年賣志。芳名至今。詩曰。人生自古誰無死。留取丹心照汗青。其然其然。

国立公文書館内閣文庫本

柳川文化資料集成第二集 安東省庵集影印編 I
三忠傳巻の下 後學安東守約省庵謹撰
楠正成公世子正行公附

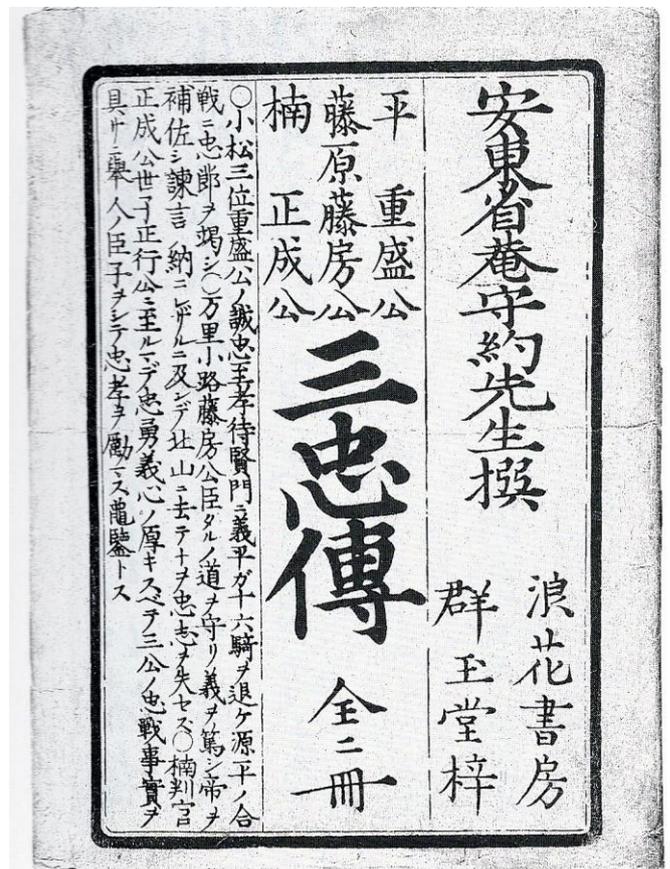
正行公の贊曰

禮曰君父之仇不興共戴天齋囊復九

世之讐ヲ春秋大ナリトス之ヲ設モシ呂小報シ大ニ弱復ク強ニ益ク又難シ矣豫讓不レ能レ得レ志ヲ於襄子ニ申胥所ニ呂藉ルニ手シ於闔閭ニ公乃能ク建テ義旗ヲ攻ヲサメ鳴鼓ヲ卷キ甲ヲ倍シ道ヲ潜ヒソメ師ヲ入リ都ニ使所ノ報ユル者モ身踰テ垣ヲ而逃レ弟穴ヲ地ニ而竄レ陷ル刃ヲ於其妻ニ亦足レリ呂落ニ姦雄之膽ヲ矣斯レ無シ媿ルヲ於枕ニスル戈ヲ之志ニ可シ呂下モ報ク其ノ父臨歿スルニ數言ニ是レ父是レ子雖ニ青年賣ト志ヲ芳名至ル今ニ詩曰人生自レ古誰カ無ラン死留取丹心ヲ照スト汗青ヲ其レ然リ其レ然リ

▼河内屋版三忠伝袋

○楠判官正成公世子正行公ニ至ルマデ忠勇義心ノ厚キスベテ三公ノ忠戦事實ヲ具サニ舉人ノ臣子ヲシテ忠孝ヲ勵マス龜鑑トス



河内屋版三忠伝袋（甲木(与)文書31)

*安東省庵（1622～1701）

貝原益軒とともに海西の二巨儒と称される江戸初期の儒学者。中国明の儒者朱舜水が長崎に来たとき師弟の礼をとり、朱舜水が水戸藩に用いられるまで、自らの禄の半分（40石）を送り、終始その生活を援助した。

（文責「四條啜楠正行の会」代表 扇谷昭）